

ちょっと

# 知ってほしい話

vol.4

令和元年 9月 発行

発行元 地域連携課

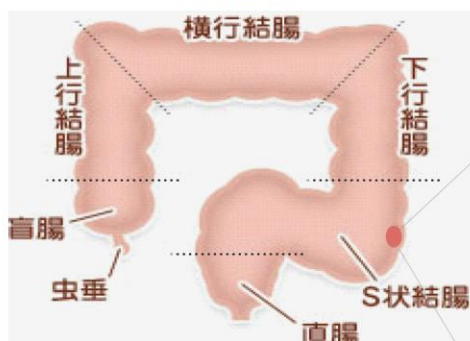
医療法人社団 徳成会

八王子山王病院

Hachioji Sannou Hospital

## 大腸がん

大腸がんは大腸カメラで早期に発見できます。



大腸がんは、腺腫という良性のポリープが、がん化して発生するものや、正常な粘膜から直接発生するものがあります。（下写真：大腸カメラでのぞいた様子）

腺腫 (5ミリより小)



良性

腺腫 (5ミリより大)



前がん病変

早期がん



悪性

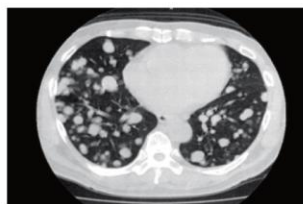
進行がん



悪性

早期では自覚症状はほとんどなく、進行すると症状が出てきます。

### CT画像での転移所見



肺



肝臓

大腸がんは、症状が出た頃には進行がんの場合が多く、その場合は開腹の手術になったり、すでに転移があったりします。進行した大腸がんは大腸の壁の外まで広がり、腹腔内に散らばったり、大腸の壁の中のリンパ液や血液の流れに乗って、リンパ節や肝臓・肺など別の臓器に転移してしまうのです。早期がんであれば、大腸カメラで切除でき、再発や転移の可能性は非常に低くなります。症状はなくても早期がんのうちに発見し、治療することがとても重要です。

### 大腸がんの症状

血便（便に血が混じる）

下血（赤または赤黒い便が出る）

下痢と便秘を繰り返す

便が残る感じがする

おなかが張る

腹痛

貧血

体重減少

便が細い など

早期のうちに見つけるために、まず検診を!!

症状がない早期がんを見つけるには、市の大腸がん検診や自費の検診（人間ドック）をできるだけ受け、必要であれば大腸カメラを受けることが大切です。

